



1 月 号

平成 30 年 1 月 23 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たぐいましい荘川っ子

- ・考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

強くなる

校 長 水 口 悟

款冬華さく（ふきのとう はな さく 大寒・初候）

露の花が咲き始めるころ。凍てつく地の下で、春の仕度が着々と進みます。（新暦では、およそ一月二十日～一月二十四日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）

つよさ

郡山市立小田原小学校
三年生児童

つよってことは

まけないことじゃない

つよってことは

なかないってことじゃない

つよってことは

まけても

あきらめないこと

つよってことは

ないても

またわらえること

H27.3 月 未来を拓く心の
ブック小学校版
福島県郡山市教育委員会
学校教育課より



1月6日に、荘川桜を見に行つて来ました。昨年度とは違い、今年は雪をかぶった姿でしたが、相変わらずの逞しい幹と枝振りは健在でした。昨年の台風で枝が傷んだと聞きましたが、1年間を通して暑い日も寒い日も動じることなく春をじっと待つ姿には、やはり心を打たれます。

その姿は、荘川小学校の子どもたちにもあります。3学期始業式において、点滅信号での目を見ての挨拶、朝の掃除、今日のめあての全校放送、始業式への整列、目を見て話を聞く姿勢……。1年を通して、変わらない。整然としていて、‘あたりまえ’にやりとげる姿があります。暑い日も寒い日も、調子のよいときもよくないときも、‘あたりまえ’を続ける姿が、あります。それは、つよさです。積み重ねられた、つよさです。荘川桜物語の精神そのものだと思います。

本校がめざしている「ひとり歩き」する姿とは、決して独りぼっちで歩む姿ではありません。主体的に食欲に、いろいろな人・物・事・につながり、自分を膨らませながら歩む姿を求めています。けれども、時に、独りで立ち止まり・歩まなければならない場面があります。スポーツの場面でも沢山あります。剣道では、面を被ったときが独りになる瞬間だと思います。自分独りで相手と戦うことが決まった瞬間、仲間は自分に対して応援しかできない瞬間、誰も手を貸せなくなる瞬間、自分との戦いが始まった瞬間……。

この詩は、約7年前に東日本大震災により震災を体験した児童の詩です。‘つよさ’とは何か……。タフなこと、しぶといこと、諦めないこと、挑戦し続けること、自分を信じられること、夢や目標があること……。自分の歩みを確かに来年度につなぐ3学期にしたいものです。自分自身の足もとを見つめ、自分の歩調を大切にし‘つよく’歩もう！